



生き物のつながりや豊かさを知り 保全や活用に生かす



生き物のつながりや豊かさを知り、それらの保全や活用について考える「生物多様性フォーラム」が、ひまわり会館で開催されました。伊島のササユリの生態に詳しい、内原町出身で九州大学工学研究院特任助教の横田静香さん（30歳・福岡市在住）は、「自らの花粉だけで種を作ることができないササユリが、花粉を運ぶ昆虫やその食草が息するという生物の多様性をもたらしている」として、「これまで培われてきた保全活動のノウハウを広く伝え、同じササユリが息する地域と交流を深めることで、伊島の良さをPRしていけるのではないかと説きました。ほかにも、カタツムリについての講話もあり、参加した約120人は熱心に耳を傾けていました。

エコパーク阿南で 不燃ごみ等の受入れ始まる



新ごみ処理施設「エコパーク阿南」（橘町小勝）で、家庭から出される不燃ごみ等の受入れが2月12日から始まりまし。収集されたごみは3階のプラットホームで受け入れて、種類別にごみを処理しています。手選別室では、作業員の手によって不適物がないかなどのチェックを行っています。「エコパーク阿南」では、昨年の11月から可燃・粗大ごみの受入・処理を行っており、今回の不燃ごみ等も含めて、4月1日から本格的に施設を運営します。

【問い合わせは】エコパーク阿南（☎49-5820）へ

立志式で将来の夢、目標を語る



1月30日、伊島中学校で生徒が将来の夢や目標を語る立志式が行われ、保護者や住民など21人が参加しました。立志式に臨んだのは2年の3人。栗田智之さんは「すべてのことが丁寧にできる大人になりたい」、川西 壘さんは「漁師を継ぐかはわからないけれど、人に喜んでもらえる仕事に就きたい」、斎藤優花さんは「周りの人を笑顔にできる仕事に就きたい」と目標を語りました。企画した学校長の浅野晋一さんは、「近い将来、子どもたちは伊島に残るか離れるかの選択に迫られます。大人になる一歩手前のこの歳に、将来の目標を見つけ自覚を深めることはとても有意義なこと。社会に貢献できる立派な大人になってほしい」とエールを送っていました。

梅の名所「明谷梅林」が開園 梅林まつりは3月20日まで



阿南市の観光名所の一つ、明谷梅林園が2月9日に開園しました。開園式では、岩浅市長をはじめ関係者によるテープカットが行われ、訪れた約500人の観客とともに春の行楽シーズン到来を祝いました。会場では、もち投げが行われたほか、長生婦人会や梅の郷明谷梅林の皆さんが、ぜんざいやあめ湯を振る舞いました。恒例の梅干しの種飛ばし大会は、2歳から79歳までの29人が参加して行われ、7.63mを記録した岩橋義一さん（67歳・長生町）が優勝。リニューアルされた売店では、梅干しのほか、阿南ボランティア連絡協議会によるたこ焼き風の創作料理「明谷焼」が販売されました。梅花は3月中旬までが見頃です。

世代を超えて広がるボランティアの輪



市内でボランティア活動に取り組む団体による「第5回阿南市ボランティアフェスティバル」が夢ホールなどで開催され、大勢の来場者でにぎわいました。イベントには中高生110人が参加。ぬり絵などを楽しめる「遊びのコーナー」やステージイベント、おでんやうどんを販売する「美味しんぼ屋台」で大活躍。「三味線クラブ春日野会」の皆さんによる三味線もちつきも披露され、つきたてのおもちが無料で振る舞われました。阿南市ボランティア連絡協議会会長の阿部和恵さん（福井町）は、「学生ボランティアの皆さんに元気もらいました。イベントに携わることで、社会参加する喜びや奉仕の精神を感じ取ってもらえたらうれしいです」と話していました。

一流の振付師からダンスの楽しさを学ぶ 羽ノ浦中学校でダンス教室



ダンスのおもしろさや楽しさを体感しようと、羽ノ浦中学校でダンス教室（文化庁事業）が行われました。首都圏で活躍する「アジアダンスウオーカー」の5人の振付師が講師として招かれ、ダンスの基本動作やリズムの取り方などについてアドバイスを受けました。その後、生徒たちはヒップホップダンス、ジャズダンス、ハウスダンス、ロックダンスの4グループに分かれてレッスンを受け、3日間かけて創作ダンスに取り組み、最終日に全校生徒の前で披露しました。

ヒップホップを体験した新田麻琴さん（2年）は「ダンスを踊るのは初めてで緊張しましたが、やさしく丁寧に教えてくれたので楽しめました。これから始めるダンスの授業が楽しみです」と笑顔で話していました。

地域の宝 火災から守れ！ 八杵神社で文化財防火訓練を実施



長生町の八杵神社で、山林火災発生を想定した防火訓練が行われ、神社関係者や消防団員など約90人が連絡体制の確認や初期消火の手順を確認しました。訓練では、火災を発見した神社関係者が「火事だ」と周囲に呼び掛け、119番通報。社殿から文化財に見立てた箱を搬出し、消火器を使った初期消火や山林への放水を行いました。神主の榎原 健さん（63歳・長生町）は、「八杵神社には貴重な文化財が収納されています。こうした訓練を通じて、文化財愛護意識の普及や、防火・防災意識の高揚に努め、次の世代に引き継いでほしい」と話していました。市内には95件の指定文化財があり、そのうち八杵神社には3件の国指定文化財と2件の県指定文化財があります。

映画「モンゴル野球青春記」が 東京都八丈町で上映される



本市と野球で交流のある東京都八丈町で2月16日、映画「モンゴル野球青春記」が上映されました。関東での自主上映は今回が初めてで、昨年8月にオープンした多目的ホール「おじゃれ」で行われました。八丈町を訪問した田上野球のまち推進監が映画と本市の関わりなどを紹介し、詰めかけた約200人は熱心にスクリーンに見入っていました。映画の評判は上々で、三原中学校野球部の河野大海くんは、「モンゴルのチームが日本に行くシーンでは、自分たちが初めて東京都の大会に出場した時の緊張感を思い出しました」。また、将来、女子プロ野球選手をめざしている笹本ゆうかさんは、「女性が主人公を励ます言葉が印象的でした」と話してくれました。